

平成11年度厚生科学研究

(生活安全総合研究事業)

研 究 報 告 書

研 究 課 題

熱媒体の人体影響とその治療法等に関する研究
－ 11年度油症患者のライフスタイル等のアンケート調査－

平成12年3月

主任研究者 福岡県

主任研究報告書

熱媒体の人体影響とその治療法等に関する研究
—11年度油症患者のライフスタイル等のアンケート調査—

主任研究者 福岡県

研究要旨 1968年のカネ油症発生から32年を経過した今日、患者の高齢化が進む中、患者の健康のための行為や生活状態に対する健康教育や環境的支援が重要な課題になりつつある。本年度は、患者アンケート調査を実施し、従来の検診だけでは把握できない患者のライフスタイルや検診の要望等について検討した。アンケート対象者は福岡県を住所地とする607人。郵送法により配布・回収した。回収率は30%、181人から回答を得た。生き生き人生のための準備には体力の増進や健康の保持が最も多く61%だった。油症による不利益は健康被害の152件(84%)、次いで、精神的被害80件(44%)だった。今後は、検診の継続と共に患者の精神的ケアが重要である。

研究協力者 片岡恭一郎
福岡県保健環境研究所
専門研究員

調査項目は、性別、年齢区分、居住地区分、健康状態、健康行動、油症による不利益・不安感、出産歴、検診に対する要望等を設定した(別紙1参照)。

A. 研究の目的

1968年のカネ油症発生から今日まで、患者の効果的な治療法の解明及び健康管理、指導のために福岡県は患者の検診及び追跡調査を実施している。

今後は、検診の実施と共に、患者の健康のための行為や生活状態に対する健康教育や環境的支援が患者の高齢化に伴い、重要な課題になりつつある。言い換えれば、患者の健康管理や健康教育あるいは患者の環境整備をどのような形で支援できるかを具体的に提示することにある。そこで、本年度は、患者アンケート調査を実施し、検診だけでは把握できない患者のライフスタイルや検診の要望等について検討した。

B. 方法

調査対象者は福岡県内を住所地とする油症患者607人(男288人、女319人)とした。調査票は個別に郵送により、配布・回収した。

C. 結果、考察

(1) 集計対象の属性に関する集計

表1 集計対象の属性

年齢区分	性別	福岡地区	北九州地区	筑後地区	筑豊・京築地区	不詳	総数
総数	総数	59	58	15	31	18	181
	男	24	23	8	17	6	78
	女	34	33	7	10	10	94
20~29歳未満	総数	1	0	0	0	0	1
	男	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	1
30~39歳未満	総数	7	7	3	4	5	26
	男	2	4	2	3	2	13
	女	5	3	1	1	3	13
40~49歳未満	総数	7	3	2	4	3	19
	男	4	2	1	4	1	12
	女	3	1	1	0	1	6
50~59歳未満	総数	7	8	4	5	2	26
	男	3	2	3	2	1	11
	女	4	5	1	2	1	13
60~69歳未満	総数	19	11	1	5	3	39
	男	9	4	1	1	1	16
	女	10	7	0	4	2	23
70~79歳未満	総数	10	21	5	8	4	48
	男	4	8	1	4	0	17
	女	6	13	4	3	3	29
80~89歳未満	総数	5	7	0	5	0	17
	男	2	2	0	3	0	7
	女	2	4	0	0	0	6
90歳以上	総数	2	1	0	0	0	3
	男	0	1	0	0	0	1
	女	2	0	0	0	0	2
不詳	総数	1	0	0	0	1	2
	男	0	0	0	0	0	1
	女	1	0	0	0	0	1

回収された調査票は181枚で全調査対象の

30%であった。集計対象の属性については表 1 に示した。

性別は男が 78 人(43%)、女が 94 人(52%)であった。年齢区分は 70 ～ 79 歳未満が 48 人(27%)で最も多く、次いで 60 ～ 69 歳が 39 人(22%)だった。地区区分では福岡地区が 59 人(33%)及び北九州地区が 58 人(32%)が多かった。

郵送法の回収率は一般的に 30%程度と言われており、今回も同様な回収率であった。調査対象者 607 人の男女の構成百分率は男 47%、女 53%であり、回収された集計対象者の男女の百分率も男 43%、女 52%で、調査対象者の男女の構成百分率と集計対象者の男女の構成百分率には統計的な有意差は認められなかった。

(2) 現在の健康状態について

181 人の集計対象者のうち医療機関にかかっている者が 115 人(64%)で最も多く、次いで、体調は良好でないが、医師にはかかっていないが 52 人(29%)だった。体調が良好である者は 9 人(5%)にすぎなかった(図 1)。

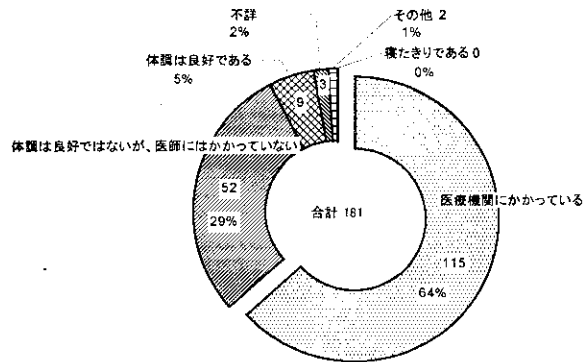


図 1 現在の健康状態

調査の対象が油症患者であることから、医療機関にかかっている者が多いのは当然であろう。医療機関にかかっている者 115 人の病名は図 2 に示すように、胃や腸の病気 38 件(33%)、高血圧 37 件(32%)だった。その他 56 件の中で多かった病名は図 3 に示したように腰痛や痛風

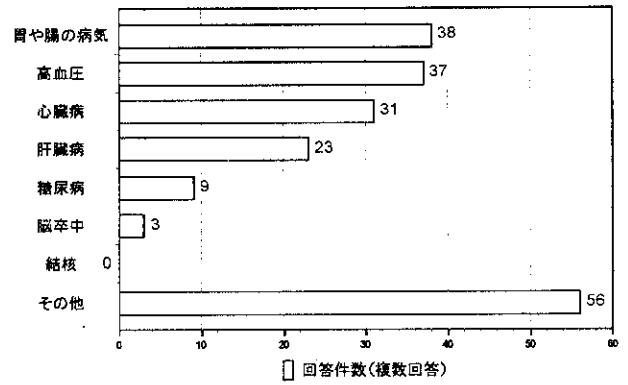
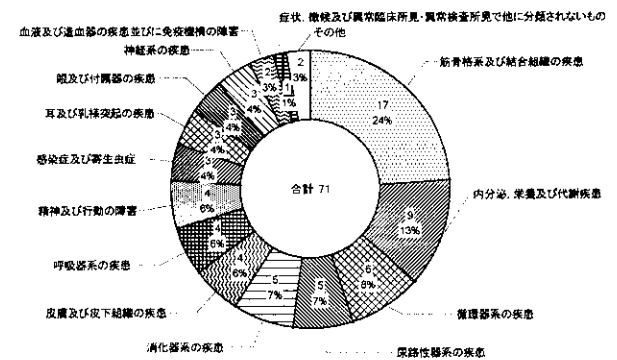


図 2 医療機関にかかっている者の病名 (複数回答)



などの筋骨格系及び結合組織の疾患、高脂血症や甲状腺障害などの内分泌や栄養及び代謝疾患、脳梗塞などの循環器系の疾患等が多かった。

(3) 体重、体調の変化について

油症後の体重変化は、減少が 63 人(35%)、変化なしが 57 人(31%)で増加は 9 人(5%)だった(図 4)。

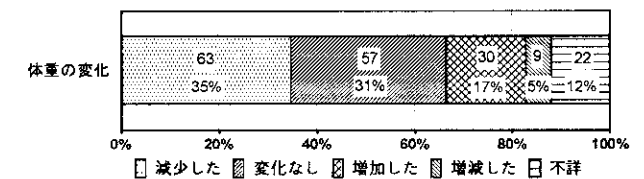


図 4 体重の変化

体調の変化については、疲れやすい・だるいが 140 件で最も多く、集計対象者 181 人の 77% に症状の訴えがあった。次いで、手足の関節の痛み 93 人(51%)、手足のしびれ 85 人(47%)、

目やに 84 人(46%)が多かった (図 5)。

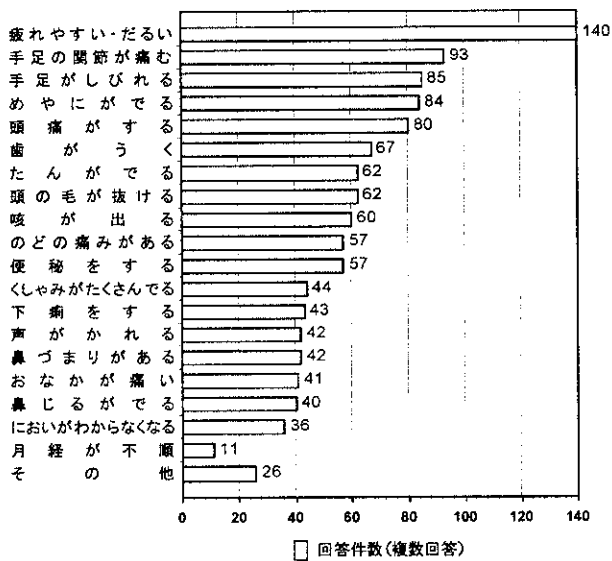


図 5 体調等の変化 (複数回答)

(4) 日頃の健康維持について

野菜をとるよう心がけているが 146 件、集計対象者全体の 81%で最も多かった。次いで、十分睡眠をとる 97 件(54%)、健康補助食品等を活用する 54 件(30%)だった (図 6)。

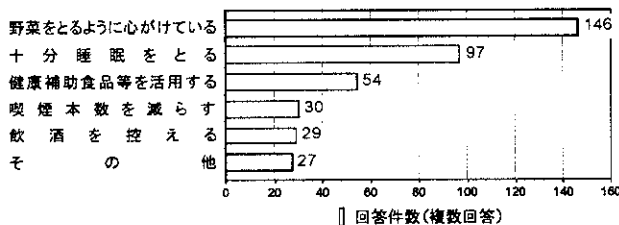


図 6 日頃の健康維持 (複数回答)

補助食品等にはビタミン剤や栄養補助食品等を組み合わせて活用している。

(5) 日頃の運動について

日頃運動している者は 89 人で全体の 49%だ

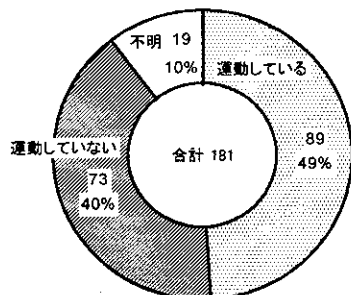


図 7 日頃の運動習慣

った。一方運動していない者は 73 人で 40%を占めた (図 7)。

図 8 運動の種類 (複数回答)

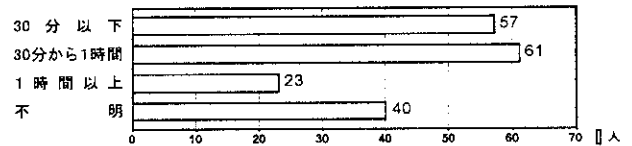
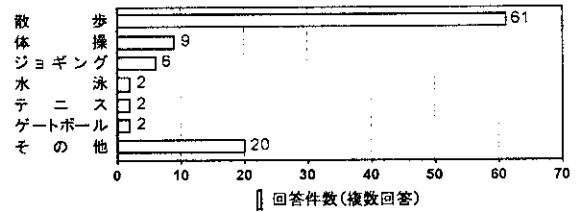


図 9 一日に (家の外を) 歩く時間

図 8 に示すように運動している者 89 人のうち散歩が 61 件(69%)で圧倒的に多かった。以下、体操 9 件、ジョギング 6 件だった。その他の 20 件の中では剣道が 3 件あった。

一日に家の外を歩く時間は、30 分以下が 57 人(31%)と 30 分から 1 時間が 61 人(34%)と大半を占めた (図 9)。

(6) 今後の時間の使い方について

今後の自由な時間の使い方でもっと多かったのは休養・くつろぎで 101 件(56%)だった。次いで、友人や知人との交流 63 件(35%)、家事・身の回りの用事 60 件(33%)だった (図 10)。

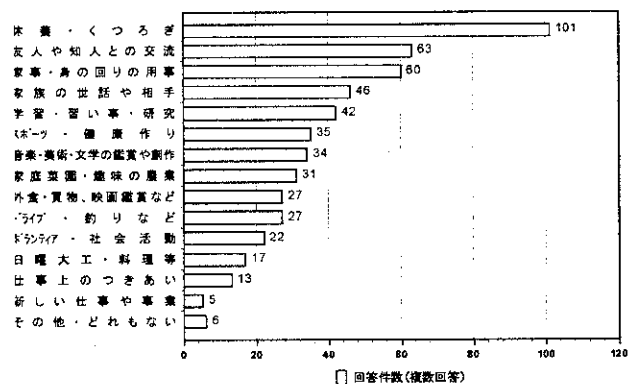


図 10 今後の自由な時間の使い方 (複数回答)

(財) 余暇開発センターの「レジャー白書」(1995 年)によると、60 歳代の男女が求める自由な時間の使い方でもっと多かったのは「休養・くつろぎ」で、次いで、「友人や知人との交流」、「家

事、身の回りの用事」の順になっており、今回の調査でも同様な順位であった。

(7) 今後の生き生き人生のための準備

経済的なものを除いて、人生を生き生きと暮らすために準備しておきたいものを尋ねたところ、図 11 に示すように、110 件、61%の人が体力の増進や健康の保持を上げた。次いで、趣味を持つこと 89 件(49%)、家族関係の充実 66 件(36%)が続いた。

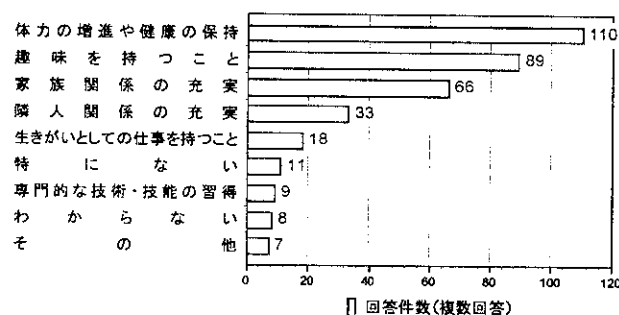


図 11 生き生き人生のための準備 (複数回答)

総理府の「高齢期の生活イメージに関する世論調査」(1993 年)では、第 1 が「趣味を持つこと」、第 2 が「体力の増進や健康の保持」、第 3 が「友人、仲間づくり」、以下「家庭関係の充実」、「生き甲斐としての仕事を持つこと」の順であった。今回の調査では第 1 が「体力の増進や健康の保持」で、第 2 が「趣味を持つこと」で順位が入れ替わっている。これは油症患者を対象にしているため、患者の意識からして当然の結果であると言える。

(8) 生活習慣について

喫煙の習慣では、吸わない者が 99 人で全体の 55%を占めた。吸っている者は 48 人で 27%だった。また、飲酒の習慣では、飲まないものが 100 人で 55%を占め、飲むものは 54 人で 30%を占めた。

図 12 に喫煙と飲酒の関連図を示したが、喫煙も飲酒もしない者が最も多く、76 人で 42%を占めた。喫煙も飲酒もする者は 24 人だった。

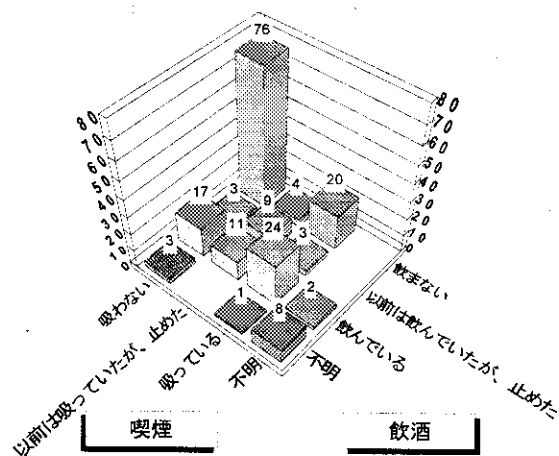


図 12 喫煙と飲酒の関連図

(9) 油症による不利益、不安について

油症によって被った不利益で最も多かったのは、健康被害の 152 件で全体の 84%が訴えた。次いで、精神的被害の 80 件(44%)、経済的被害の 65 件(36%)の順であった(図 13)。

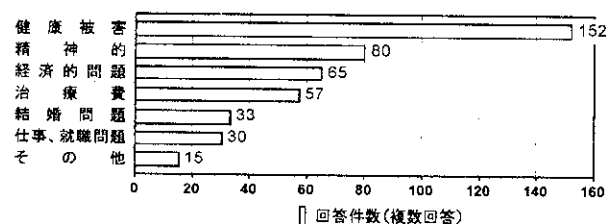


図 13 油症による不利益

精神的被害を訴えた 80 人のうち 24 人については具体的な記述があった(表 2)。

油症における後遺症が、肉体的なハンディ、いじめ、差別感等の精神的被害に繋がっている。

その他の不利益として 15 件回答があったが、不利益を被ったことが「特にない」の 1 件を除き、出産等の社会生活上の不利益が認められた(表 3)。

油症に関して不安に思うことについては、図 14 に示すように、健康の 147 件(81%)が最も多く、次いで、治療費の 66 件(36%)、精神的に 61 件(34%)、経済的問題の 57 件(31%)だった。

患者の高齢化に伴い、身体的機能の低下に加え、精神的な不安感が多く認められることから、

今後、従来の検診、治療の中に、十分な精神的ケアのプログラムも必要である。

表2 精神的被害の具体例

- ・ 23才でなり、結婚がため
- ・ いじめ
- ・ 一口には云えないが体力の持続ができない事
- ・ 家族などが毎日がつきつといてるし、私自身も身をもって感じているので今後が心配
- ・ 月面、イボ男など
- ・ 差別扱いされた
- ・ 差別感
- ・ 差別的嘲笑を受けた
- ・ 妻に判って一時仲が悪くなった
- ・ 子供の事
- ・ 子供の就職、結婚、孫
- ・ 将来への不安があった
- ・ 色々症状が出る 特に麻酔を使うと寒気がし、気分が悪くなり歯の治療も不安
- ・ 人に知られたくない
- ・ 吹き出物があるので人前に出るのが苦痛 吹き出物において
- ・ 生きている間認定者である事は、いつも頭の中にある
- ・ 大事な子供全員油症患者にした
- ・ 脱毛のため恥ずかしい思いをしている
- ・ 疲労が激しく、持久性がない 健康上など経済的にも精神的に参った
- ・ 不安、なおるのか
- ・ 夫に知れたとき
- ・ 油症とはいづらいい 社会的ハンディとして
- ・ 憂鬱
- ・ 両親共に病院にかかることが多く特に母は何度も生死の境を彷徨う様な病状をひきおこす

表3 その他の不利益の回答例

- ・ 2人死産医師から子供はあきらめるように言われた
- ・ 会社評価の影響
- ・ 急性期は突然死しかわかない状態で家庭生活もうまいかずすべて不利益であった
- ・ 健康な人の様に罵力が出ない
- ・ 子供達の結婚、出産の度本当に心配しました
- ・ 主人が休職し減給、国の補償がある事を信じ退職を早めたが返還する事になり苦しい
- ・ 色々な面で引け目をしてきた
- ・ 通院交通費、待ち時間
- ・ 待になし
- ・ 日常生活が不安
- ・ 背中が痛がり海水浴等に行けない
- ・ 皮膚が黒く背が伸び悩んだこと 目が小さい時からずっと悪い
- ・ 民間薬等の費用が大である
- ・ 油症による腸出血の激しいのと再出血予防の為外出できず困っている
- ・ 油症前より菓子店を営業、油症により売上げは減少し店は倒産(カネミ油使用のため)

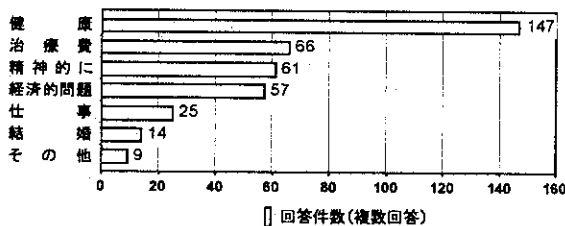


図14 油症による不安感

(10) 出産歴について

女性 94 人の中で出産歴があったのは 73 人 (78%) だった。年齢区分別の出産歴状況を図 15 に示す。

図 16 は出生年をカネミ油症が発生した昭和 43 年以前と以後に分け、男女の出生数の違いを見たものである。昭和 43 年以前に生まれた者は総数で 130 人、昭和 43 年以後の生まれた者は 41 人だった。性別の構成割合は昭和 43 年以前生まれの場合、男 52%、女 48%、昭和 43

年以後生まれの場合は男 56%、女 44%で、出生年の違いによる男女の構成割合に統計的な有意差は認められなかった。

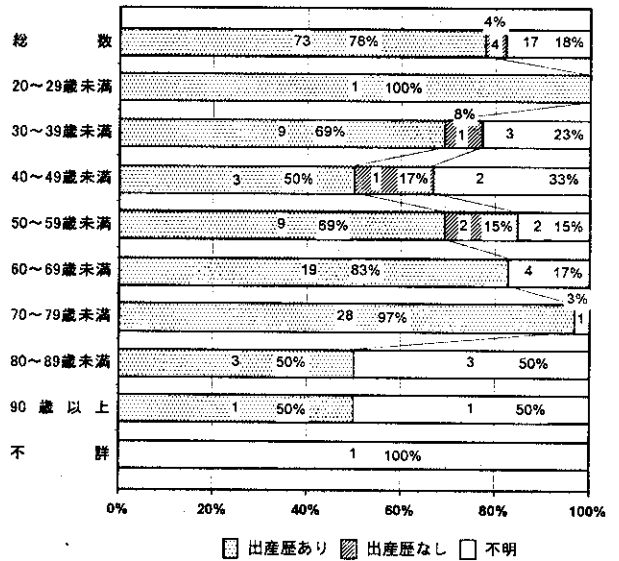


図15 年齢区分別出産歴状況

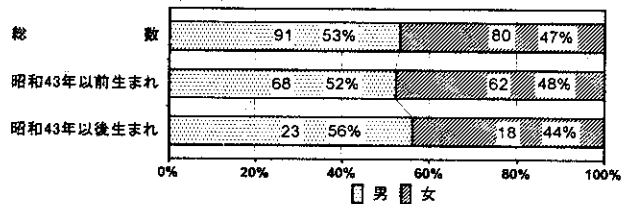


図16 生年一性別出生状況

(11) 今後の検診に対する要望について

今後の検診の要望としては、油症に関する所見以外に、検診の結果、判明した所見について詳しく知らせてほしいが最も多く、56件(31%)だった。検診日は平日よりも、土曜・日曜を希望している者が多かった(図17)。

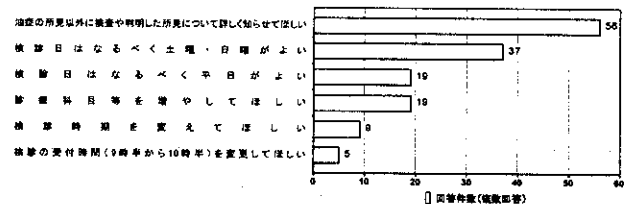


図17 今後の検診に対する要望

(12) 今後の受診希望について

今後の受診希望については、受診したいと答

えた者が 79 人で、全体の 44% だった。次いで、
受診しない 48 人 (27%) だった。

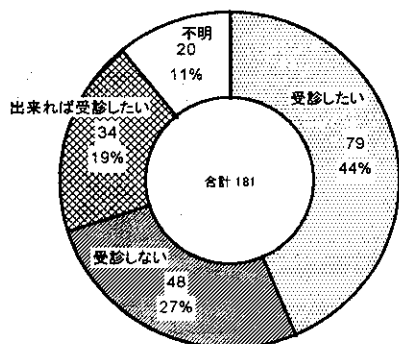


図 18 今後の受診希望

① 「受診したい」の理由

自分自身の健康管理のためが最も多く 79 人
中 62 件、78% を占めた。次いで、症状等の経
緯について知っておきたい 36 件 (46%) だった
(図 19)。

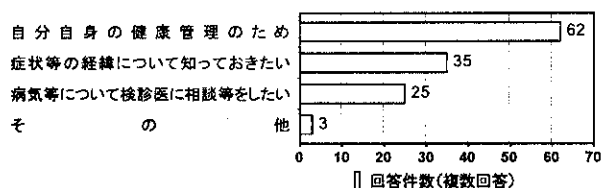


図 19 「受診したい」の理由

② 「受診しない」の理由

48 人中 17 件、35% が近くの病院で、定期的
に検診しているという理由が最も多かった (図
20)。その他の理由では、家族や他人に知られ

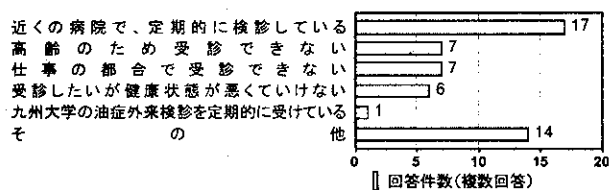


図 20 「受診しない」の理由

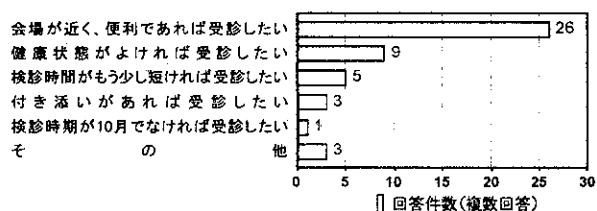


図 21 「できれば受診したい」の理由

たくないが 4 件、治らない、あきらめているが 4
件、遠方のため 2 件が主な理由であった。

③ 「出来れば受診したい」の理由

会場が近くで便利であれば受診したいが 34
人中 26 件で最も多く、76% を占めた (図 21)。

患者は体力の増進や健康の保持に強い意識が
あるものの、検診受診希望者が半数以下である
ことは、患者の健康の意識が受診行動に結びつ
いていない。それは、受診しないの理由によく
表れており、検診に対する期待感が希薄であり、
現時点では治療に対する希望が無いと推測
される。

(13) 今後の検診に関する要望等について

37 人から油症に関わる様々な意見、要望等
が寄せられた (別紙 2)。

D. まとめ

福岡県を住所地とする油症患者 607 人に、ラ
イフスタイル等のアンケート調査を実施し、181 人から回答
を得た。

油症患者の 64% は現在医療機関にかかって
おり、体調が良好である者は全体の 5% だった。

患者の多くは、日頃から野菜を取るように心
がけたり、喫煙・飲酒を控え、健康維持に心が
けており、体力の増進や健康の保持に対する意
識は高いものがある。その反面、油症中毒の後
遺症や精神的な苦痛に悩まされており、現時点
では治療効果に期待がもたれないことから、治
療や検診に対するあきらめ、医師や行政への不
満が認められる。しかし、それは、逆に医師や
行政への期待の裏返しなのかもしれない。

今でも油症中毒に苦しむ患者の意見を真摯に
受け止め、今までの検診に加え、患者の精神的
な支えとなるためのケアプログラムを組み込むなど
新たな検診体制、健康教育等の患者支援策を考
える必要があると思われる。

別紙1 アンケート用紙

秘

11年度油症患者の方々のライフスタイル等に関するアンケート調査

調査についてのお願い

カネミ油症事件が発生してから、32年になります。ベネコの間、福岡県といたしましては、毎年3会場、延べ4日間、検診を実施しておりますが、油症対策が務まらないお一人の方の推進を図るため、検診だけでは把握できないお一人の方のライフスタイルや検診にいたらないお一人の方の調査をこの機会に実施いたします。ましても、ご多忙のところ誠に恐れますが、この調査に一人でも多くの方々に協力をお願いします。コンピュータ処理、個人のお名前などは、この調査は、とありませぬ。返信用封筒にて、平成12年1月末日までに返送願います。

福岡県保健福祉部生活衛生課

ご記入下さい。またあてはまる番号を○で囲んでください。

性別	1-男	2-女		
年齢	1-20歳未満	2-20~29歳	3-30~39歳	
	4-40~49歳	5-50~59歳	6-60~69歳	
	7-70~79歳	8-80~89歳	9-90歳以上	
居住地	1-福岡地区	2-北九州地区	3-筑後地区	
	4-筑豊・京築地区			

質問1 現在の健康状態はいかがですか

- 1-体調は良好である
- 2-体調は良好ではないが、医師にはかかっていない
- 3-医療機関にかかっている
- 4-寝たきりである
- 5-その他 ()

質問2 質問1で 3 を選択された方にお尋ねします。どのような病気で治療を受けていますか

- 1-結核 2-高血圧 3-糖尿病 4-心臓病
- 5-脳卒中 6-胃や腸の病気 7-肝臓病
- 8-その他 ()

質問3 油症患者となられた後、体重の変動はありましたか

- 1-増加した
- 2-減少した
- 3-変化なし

質問4 油症の患者となられて以来、体調等の変化はありましたか

(複数回答可)

- 1-疲れやすい・だるい 2-頭痛がする 3-咳が出る
- 4-たんが出る 5-おなかが痛い 6-下痢をする
- 7-便秘をする 8-手足がしびれる 9-手足の関節が痛む
- 10-月経が不順 11-頭の毛が抜ける 12-めやにができる
- 13-歯がうく 14-のどの痛みがある 15-声がかれる
- 16-鼻づまりがある 17-鼻じるが出る 18-くしゃみがたくさんでる
- 19-臭いがわからなくなる 20-その他 ()

質問5 日頃何か健康維持等のため心がけておられることがありますか (複数回答可)

- 1-野菜をとるよう心がけている
- 2-飲酒を控える
- 3-喫煙本数を減らす
- 4-十分睡眠をとる
- 5-健康補助食品等を活用する (品名:)
- 6-その他 ()

この欄には、何も書かないでください。

ID.No

1 8

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(性別) 9

(年齢) 10

(居住地) 11

(質問1) 12

(質問2) 13

(質問3) 16

(質問4) 18 21

34 37

(質問5) 38

質問6 何か運動をしていますか

- 1-していない
- 2-している

- | | | | | | | | |
|---------|---|----------------------|---|----------|---|----------------------|---|
| 1-散歩 | 週 | <input type="text"/> | 回 | 2-ジョギング | 週 | <input type="text"/> | 回 |
| 3-体操 | 週 | <input type="text"/> | 回 | 4-水泳 | 週 | <input type="text"/> | 回 |
| 5-テニス | 週 | <input type="text"/> | 回 | 6-ゲートボール | 週 | <input type="text"/> | 回 |
| 7-その他 (| | | |) | | <input type="text"/> | 回 |

質問7 1日にどの位(家の外を)歩きますか

- 1-30分以下
- 2-30分から1時間
- 3-1時間以上

質問8 今後のあなたの自由な時間をどのように使いたと思いますか
(複数回答可)

- 1-休養・くつろぎ
- 2-家事・身の回りの用事
- 3-家族の世話や相手
- 4-仕事上のつきあい
- 5-友人や知人との交流
- 6-ボランティア・社会活動
- 7-学習・習い事・研究
- 8-新しい仕事や事業
- 9-音楽・美術・文学の鑑賞や創作
- 10-スポーツ・健康作り
- 11-日曜大工・料理等
- 12-家庭菜園・趣味の農業
- 13-外食・買物、映画鑑賞など
- 14-ドライブ・釣りなど
- 15-その他・どれもなし

質問9 今後あなたの人生を生き生きと暮らすため、経済的なもののほかに準備しておきたいものは?

- 1-趣味を持つこと
- 2-体力の増進や健康の保持
- 3-家族関係の充実
- 4-生きがいとしての仕事を持つこと
- 5-専門的な技術・技能の習得
- 6-隣人関係の充実
- 7-その他 ()
- 8-特になし
- 9-わからない

質問10 あなたは、たばこを吸いますか

- 1-吸わない
- 2-以前は吸っていたが、止めた
- 3-吸っている

質問11 問10で2(以前は吸っていたが、止めた)又は3(吸っている)を選んだ方にお尋ねします

① 1日に平均して何本ぐらい吸いますか(吸っていましたか)

本

② タバコをほとんど毎日吸うようになったのは(1日平均1本以上)、何歳の時からですか

歳

③ タバコを止めたのは何年前ですか

年前

(質問6)

44				
45				
				46
51				

(質問7)

52

(質問8)

53				55
65				67

(質問9)

68				69
76				

(質問10)

77

(質問11)

78				79
①				
②				
③				
82				83

質問 12 あなたは、お酒を飲みますか

- 1 - 飲まない
- 2 - 以前は飲んでいましたが、止めた
- 3 - 飲んでいる

(質問 12) 84

質問 13 問 12 で 2 (以前は飲んでいましたが、止めた) 又は 3 (飲んでいる) を選んだ方にお尋ねします

(質問 13) 85

① 飲む量は平均すると、1日あたりどの位ですか 日本酒に換算してください

1日平均、日本酒として

- 1 - 1合より少ない
- 2 - 約1合
- 3 - 約2合
- 4 - 約3合
- 5 - 約4合
- 6 - 約5合以上

焼酎1合は日本酒約1.5合
泡盛1合は日本酒約2合
ビール大びん1本は日本酒約1合
ウイスキーダブル1杯は日本酒約1合
に相当します。

うすめて飲むときも、生の量で計算してください。

② お酒を飲みはじめたのは、何歳の時からですか

 歳

③ お酒を止めたのは何年前ですか

 年前

(質問 13) 86

87

②		
③		

88

89

質問 14 油症によって不利益を被ったことは

- 1 - 健康被害 2 - 結婚問題 3 - 仕事、就職問題
- 4 - 経済的問題 5 - 治療費 6 - 精神的 (具体的に)
- 7 - その他 ()

質問 15 油症に関し不安に思うことは

- 1 - 健康 2 - 結婚 3 - 仕事
- 4 - 経済的問題 5 - 治療費 6 - 精神的に
- 7 - その他 ()

質問 16 女性の方のみお答え下さい。

あなたの出産歴等についてお尋ねします。

1 - 出産歴はある (出生状況についてご記入下さい)

(質問 14) 90

91

(質問 15) 96

98

103

104

(質問 16)

		治療歴の有無	既婚・未婚の別
出生数 (総数)	年 月 日 (男・女)	有・無	既婚・未婚
[] 名	年 月 日 (男・女)	有・無	既婚・未婚
	年 月 日 (男・女)	有・無	既婚・未婚
	年 月 日 (男・女)	有・無	既婚・未婚
	年 月 日 (男・女)	有・無	既婚・未婚
	年 月 日 (男・女)	有・無	既婚・未婚
死産数 (総数)	年 月 日 (男・女・不明)		
[] 名	年 月 日 (男・女・不明)		
	年 月 日 (男・女・不明)		
	年 月 日 (男・女・不明)		
流産数 (総数)	年 月 日 (男・女・不明)		
[] 名	年 月 日 (男・女・不明)		
	年 月 日 (男・女・不明)		

2 - 出産歴はない

質問 17 今後の検診に対する要望について

- 1- 検診時期を変えてほしい
- 2- 検診日はなるべく土曜・日曜がよい
- 3- 検診日はなるべく平日（土曜日を除く）がよい
- 4- 診療科目等を増やしてほしい
(具体的に)
- 5- 油症に関する所見以外に、検診の結果、判明した所見について詳しく知らせほしい
- 6- 検診の受付時間（9時半から10時半）を変更してほしい
(具体的に 時ころ)

105
(質問17)

110

質問 18 今後の受診についてお尋ねします

- 1- 受診したい
 - 1- 1理由をお選び下さい
ア自分自身の健康管理のため
イ病気等について検診医に相談等をしたい
ウ症状等の経緯について知っておきたい。
エその他 ()
 - 2- できれば受診したい
 - 2- 1理由をお選び下さい
ア会場が近く、便利であれば受診したい
イ検診時間がもう少し短ければ受診したい
ウ検診時期が10月でなければ受診したい
エ健康状態がよければ受診したい
オ付き添いがあれば受診したい
カその他 ()
 - 3- 受診しない
 - 3- 1理由をお選び下さい
ア近くの病院で、定期的に検診している
イ受診したいが健康状態が悪くていけない
ウ九州大学の油症外来検診を定期的に受けている
エ高齢のため受診出来ない
オ仕事の都合で受診出来ない
カその他 ()

111
(質問18)

1, 2, 3.

112

1-1
2-1
3-1

117

今後の検診に関するご要望等があれば、お書き下さい。

--

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

当アンケート調査に対するお問い合わせ先 福岡県保健福祉部生活衛生課食食品衛生係 (092)651-1111(内線3165)
--

別紙2

今後の検診に関する要望等

個人が特定される可能性がある文章は伏せさせていただきました。

- (1) 返銭に経済的に不安があり疑問がある。(30～39歳未満、男)
- (2) できれば残留PCB量も測定してほしい。(40～49歳未満、性別不詳)
- (3) 会社には病名を言わず、現在のような状況では、リストラの多い時に、会社に解ればどうなるかわからないので、あまり検診を受けたくない。(40～49歳未満、男)
- (4) 特にありません。アンケート結果は見せていただけるのですか？(40～49歳未満、男)
- (5) 心臓手術を6年前××で、人工弁をつけている。腎臓移植は、××××で移植し、毎週××××の病院で検診している。(40～49歳未満、男)
- (6) 検査の結果は、油症の症状の推移を確認することであると思うがその他に、公的機関から受けるメリットは何もなかった。油症被害者に対し、何か公的立場で前向きにしてきたことはない。何か言いたいことと言えば、今後こういった事件が起きたときに、公的な立場にある機関は、責任所在は自分達になかったと逃げのではなく、前向きに対応すべきだ。今、何の為にこの様な調査をしたいのかの主旨が判断できない。(50～59歳未満、性別不詳)
- (7) 検診結果を早く知りたい(一部でも早く知らせてもらいたい)。健康管理に役立てられる検診内容と報告書にしてもらいたい。(50～59歳未満、男)
- (8) 検査報告書の検査項目のところがわかりにくいので悪いところはわかりやすく書いてほしい。(50～59歳未満、女)
- (9) 現在××才ですが常に病気との闘いでした。特に長女を産んだ時、色が黒くて随分悩みました。その後、油症の認定を受けショックを受けました。夫側の親戚等々色々娘もいじめも受け、人にはわからない苦しみをいっぱい受けてきました。私の病気は油症とは関係ないかもしれませんが、54年1月に×××炎症候群(6ヶ月入院)、平成4年に××××病等々、現在にいたっています。(50～59歳未満、女)
- (10) とにかく治療方法を見つけて欲しい。東京在住で検診日に帰れないので困っています。検診を受けても通りいっぺんの助言でしかなく、何らの進歩もない。当時、婦人科の検診があったら、そちらの治療で30才代の閉経も、脱毛も防げたのではないかと悔やまれる。閉経した時、東京で診てもらったら60才以上の子宮と言われた。(50～59歳未満、女)
- (11) 今後も、検診を続けられる様をお願い致します。(50～59歳未満、女)
- (12) 昨年の検診の時、ダイオキシン検査がありましたが、結果報告がありませんがどうなっているのでしょうか。又、今頃になってこのようなアンケートをとって、どうされるのですか。(50～59歳未満、女)
- (13) 今後も検診を続けて下さる様お願いします。(60～69歳未満、男)
- (14) 油症患者の側～心でのアンケートであってほしかった。アンケート調査は大切です。でも所詮、この調査には欠けているところが多い。医師はプロではあっても直接の油症患者ではない。医師と患者のコミュニケーションに時間をとれば、とても現在までの医師の人数や時間などでは却ちと思いますが、それ故に通りにいっぺんにすべてが終わり流れて、不信感が増幅されてきたのではないのでしょうか。これらの点も医療、治療、研究の大切な一つと思います。(60～69歳未満、男)
- (15) 検診結果をもう少し早く知らせてもらえないか。(60～69歳未満、男)
- (16) 検診を受けたいが、日曜以外は休めないで困っています。(60～69歳未満、男)
- (17) 油症問題は、県はどの様に考えているのですか？

油症の保留の者はどの様に思っているのですか？患者又は保留者のことをよく考えてほしい。いつまでも苦しめないで下さい。お願い致します。アンケート調査をするには結果を知らせてほしい。福岡県保健福祉部生活衛生課食品衛生係をお願い致します。(60～69歳未満、男)

(18) 現在油症患者は人にはわからない苦しみがあります。早く体内より毒物が排出され元気になりたい。よくなる薬が出きればと思います。病院に行ってもガミとの関連がわからないと医師は言われますが、自分達の苦しい思いをわかってほしい(60～69歳未満、女)

(19) 歯もひどく悪くなっているので、骨自体もみて欲しい。義歯のよいものを作るところを紹介して欲しい。(60～69歳未満、女)

(20) 甲状腺をEJ-でみていただきたい。整形外科の先生にも、是非みていただきたい。出来れば検査結果がもう少し早く欲しいです。昨年の検診の時、ダイキソ検査もあったと思うのですが、その結果はまだきていませんがどうなっているのでしょうか？ダイキソ問題を見聞きする中で、今迄以上に油症のこわさ、不安を感じています。今後ともよりよい検診をお願い致します。(60～69歳未満、女)

(21) 検査報告書をわかりやすく書いて欲しいです。検査項目の記号がよめません。意味がわかりません。例えば、ZTTとかTTTと何だかわかりません。勉強不足でしょうけど、近くの病院で聞きづらいし、わからないまま不安な気持ちで過しています。出来れば、油症対策としてだけではなく、本人にもわかりやすい説明書が欲しいです。(60～69歳未満、女)

(22) 11年度検診でのダイキソの検査結果はどうか？検査結果が年末近くになるので、もっと早い時期にすれば結果は早くなりますでしょうか？検診時の流れがもっとスムーズにと何時も思っているのですが。治療費を続けて払ってくれる事を願う。(60～69歳未満、女)

(23) 検診場所が飯塚病院ぐらいいたら良いかなとおもいます。(60～69歳未満、女)

(24) 検診の結果が11月末まで位に通知があれば、再検診が年内に受診できますので助かります。(60～69歳未満、女)

(25) ① 時々検診をうけないことがある。医師が油症のことを把握していない方が多くなった。

例えば、身体が冷えます・・・と言えば、それは油症と関係ないと断言される。断言されるならば、油症の全体(発症から今日までの生体への影響)を十分に説明すべきであるが、それは出来ない医師ばかり。発症時(S43年2月～6月)の症状を言っても無視されるありさま。今の検診のデータが最も大切だという考え方である。患者は、30年にわたり毎日油症を体験している。現時点の医師のレベルでは、ほんとうの油症は理解できないだろう。研究を深めてほしい。

② これまでに死亡した方の入院データなどを統計、解明してほしい。××に甲状腺で治療中だった妻は、H×年死亡。油症と甲状腺は、おおいに関係がありそうである。死んだら県庁は受診リストから消すだけのこと。頼りがいが無い。

③ 環境ものの原点は、PCB(油症)であることをもっと大切にしてほしい。

④ 発症当時、多くの赤ん坊が死んでいった様子を知っているのは70才以上の患者だけかも知れない。(70～79歳未満、男)

(26) ダイキソなどの事との関連で、油症の教訓が生かされることをのぞみますが、現状は被害者間の連絡がむづかしく、限られ部分でしか状況を知り合うことができません。行政の力で、全体像がつかまることができればありがたいと思っています。(70～79歳未満、男)

(27) 最近検診者が少ない為、午前中で終わるようにしてほしい(70～79歳未満、男)

(28) 検査結果報告をもっと早くしてほしい(70～79歳未満、女)

(29) 昨年の検診の結果、九大に行きたいと思う。昨年ダイキソの血液検査をしたが、いまだ結果をもらっていない

い。どうしたのですか。(70～79歳未満、女)

- (30) 患者の高齢化のため、要望を聞いて居住地の近くまで検診班がでかけて検診してもらいたい。

質問 17 の項⑤—油症に関する所見以外の検診の結果とは何をさして言うのでしょうか。生体が生きることのために働いていますが、患者の体内にあり、血液と体脂肪にのって体中を循環している化学物質は PCB、ポリナ PCB、PCQ、PCDF、PCDD です。これだけの芳香族炭化水素の塩素誘導体なる化学物質が、患者の肉体のあらゆるところに存在しています。30 年以上の年月をです。油症患者の体内に内分泌系（甲状腺も含む）、脳神経系、免疫系など、ぞくに 3K といわれるものの働きが退化していることは世界の学者が周知していることです。と言うことはあらゆる疾病があるということです。17 の⑤のような油症に関する所見以外とは、大変奇異な質問に思えます。このアンケート調査の主旨は何なのでしょう。検診の撤回か、それとも何なのでしょう。患者や、ダioxin汚染などを調査するためならば、もっと早くやってほしかったと思います。毎週火曜日午後の油症外来は、一斉検診にじゅんじて皮膚科だけではなく、内科や循環器内科くらいは診察に待機してもらいたいものです。それから、油症は 30 年経過したからと言ってこれで終わるわけではありません。油症発症時に生まれた子供達は、いまからが心配されます。日本中で発生しているダioxin被害者をふくめて、油症などと言わないで、全世界のために内科系の医師の奮起を期待します。わけても若い層の医師に。(70～79歳未満、女)

- (31) 設定された当初は、九大の油症外来に子供も連れて行って居りましたが、それからだんだんひどくなり通えなくなったのです。きつくて、だるくて、起きてもらえず食事も作れず家族全部がゴロゴロしていたのです。頭の毛がガカリと抜け落ち、歯も 10 本は折れて根元だけ残りました。いろいろありましたが、思い出すのも恐いです。カミの会社は、当時のことを知らない人が係りになって前は出していた健康食品も自費となり、経済的にも不安を感じています。子供達の将来の健康が心配です。(70～79歳未満、女)

- (32) 長期にわたる毎年の検診、大変お世話になります。新たな要望は別にありません。今後とも何卒宜しくお願い致します。(70～79歳未満、女)

- (33) 要望ではありませんが、私はいつも福岡の会場でお世話になっております。福岡の会場では、先生はじめ職員の皆様にとってもご親切でお優しくしていただいております。ありがとうございます。此の後もどうぞ宜しくお願いいたします。胆石がある事も、肝脂肪も福岡の油症検診受診で解りました。(70～79歳未満、女)

- (34) 32 年も経つと云うのに、この PCB の恐ろしさを毎日呪わずにはいられません。このカミ油を食べなければ我が家も普通の健康的な家族でいられたはず。とくに娘 2 人は丁度、中 2、高 3 年で進学の時期で、それぞれ腎臓、肝臓で入院しました。カミ油をドレッシングにして食べさせたことで、取り返しのつかぬ事になったのです。32 年経ってどうにか内臓や吹き出物は治まったようですが、頭髮、体毛の脱毛がひどく特にこの頃は一層ひどい。娘の毎日がどんなに辛いものか、検診を受けても治療がなく、薬もないとのこと。生理も 30 代で無くなり、子供も産めない身体になってしまったのです。当時、婦人科の検診があったなら何とか治療の方法があったのではと悔やまれてなりません。せめて市販の養毛剤や、かつらの購入をして下さい。私も高齢でこのままでは娘を救うことができません。(質問の主旨と異なりましたが) 検診会場でスズにいくよう、空いているところから先にするとか、要領を考えて下さい。(70～79歳未満、女)

- (35) 血液検査を自宅訪問して行ってほしい。(70～79歳未満、女)

- (36) すこしでも、あるればつれて行って居ましたが、寝てばかりですから、私までうごけません(80～89歳未満、男)

- (37) ×××は、平成 11 年×月×日他界いたしました。いつも悩んでいたことは、歯ぐきが腫れる、顔にブツブツ(脂肪)のようなものができていました。それに便秘です。(80～89歳未満、女)